伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業

ワークショップ 図書館のつくりかた
みんなでつくる 新しい図書館
全３回

報告書

令和５年（２０２３年）５月

(株)伊賀市にぎわいパートナーズ

目次

Ⅰ　全３回ワークショップ開催概要

１．開催目的 ―――― 2

２．開催概要 ―――― 2

Ⅱ　第１回ワークショップ ―――― 3

Ⅲ　第２回ワークショップ ―――― 6

Ⅳ　第３回ワークショップ ―――― 10

Ⅴ　ワークショップまとめ ―――― 14

Ⅰ　全３回ワークショップ開催概要

1．開催目的

本業務は伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業の整備に向け、地域の人々や観光客による施設のにぎわい創出やユーザビリティ向上のため、多様な意見を集約し、施設の価値向上を高めることを目的とする。

また参加者の意見交換を通して、住民の相互理解を促進する機会とし、参加者からの意見等については、施設サービスの内容等を検討するための基礎資料として整理することも目的とする。

2．開催概要

日　　程：全３回　①令和5年1月29日（日）②2月26日（日）③3月26日（日）
時　　間：①②午後2時30分～4時　③午後2時～4時（※第3回は開始時間を30分早めた）
会　　場：①旧上野市庁舎　①②③ハイトピア伊賀 5階多目的大研究室
対 象 者：伊賀市在住・在勤・在学（児童・生徒）・近隣の市町村在住の方
定　　員：各回40名程度（応募者多数の場合は年齢や地域等のバランスを考慮した上で抽選）
告知方法：チラシ、HP掲載、face book、文字放送、記者発表
申込方法：申込フォーム、FAX、図書館（室）カウンターへの提出
申込期限：令和5年1月22日（日）
参加者数：全３回　126名（内当日参加者107名）

チラシ（表）

チラシ（裏）

全参加者内訳

年齢	人数
10代－20代	19名
30代－40代	23名
50代－60代	35名
70代－80代	30名
合計	107名

Ⅱ　第１回ワークショップ

第１回ワークショップ

（1）テーマ

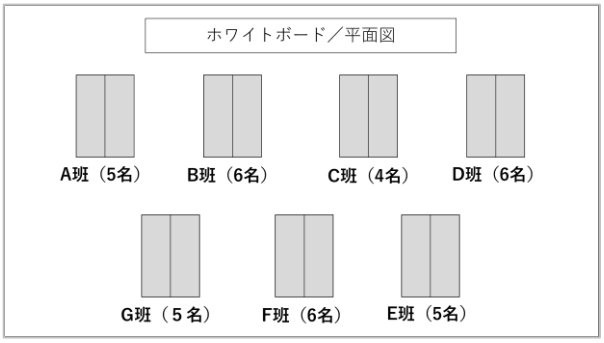
『旧上野市庁舎』って どんな建物？ ～建築家 坂倉準三の功績とともに～

（2）旧上野市庁舎見学

参加者はかつて市民サービスを主とした１F部分や、坂倉建築の特徴あるＭ２F、議場を中心に二つの中庭をめぐる廊下と執務室や会議室で構成される２Fを自由に見学。

（3）ディスカッション（ハイトピア伊賀）

見学後、参加者はハイトピア伊賀に移動。会場に準備された平面図上で「お気に入りの場所」に付箋を貼り、各班のテーブルに着席していただく。その後付箋を書いた参加者を指名し、内容について簡単に発表していただく。



開催体制（全３回とも同じ）

1グループあたり、４名～6名程度、合計７グループに分けて実施。メンバー構成は、年齢や性別が偏らないように受付時に座席を指定した。

（4）ディスカッションで出た意見やアイディア

［1　F］　空間設計や家具・什器に対するアイディアや、伊賀の特長を活用したサービス展開の例など具体的な意見が多く出された。また、カフェや読書環境の充実、市民の居場所づくりを求める声も見受けられた。

［M2F］　「静かに読書がしたい」という静寂性を求める意見もあれば「友だちとおしゃべりがしたい」というにぎわいを求める意見もあり、空間が参加者の多様で多彩なイメージを掻き立てるポテンシャルを持ち合わせていることが窺えた。

［2　F］　読書、映画、音楽、演劇など、芸術文化に関するアイディアや提案が多く見受けられた。また、バー（bar）の設置や結婚式会場としての利用など、従来の公共施設の枠組みを超えるユニークで斬新なアイディアも出された。

（5）まとめ

本ワークショップでは、幅広い年齢層の方が参加され、実際に移転の予定場所をフィールドワークしながらお互いの意見を共有しあい、新しい図書館への意見やアイデアを出し合った。施設の潜在的な価値や魅力を再認識すると共に、対話を通して多様な意見を知ることで、参加者それぞれが新たな視点に気づく機会になったのではないかと考えられる。

III　第２回ワークショップ

第２回ワークショップ

（１）テーマ

日本初『宿泊できる公共図書館』の概要と民間での先行事例

（２）第１回ワークショップ振り返り

「第１回ワークショップ報告書」をもとに第1回ワークショップの総括を実施

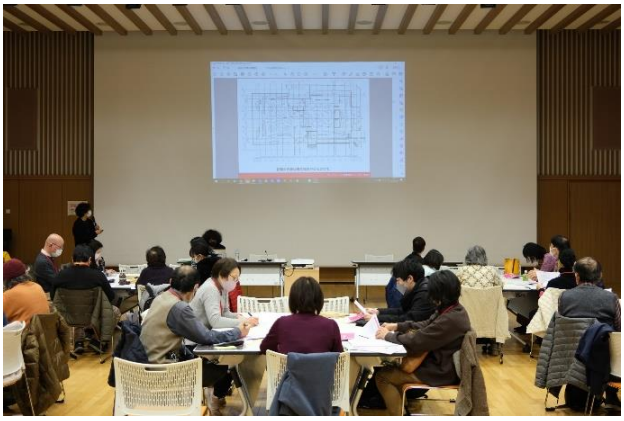
（３）現在検討中の本施設概要説明

本施設が「すべての市民が集い、訪れる人すべてに対してのこの街の顔」となるために提案の前提となる考え方を共有し、国内外における図書館の先進事例を紹介。その後、現在検討中の本施設のB1F～２F平面図をもとに各階の概要（想定）について説明。

- 主な３つの機能を縦割りにするのではなく区別されながらも融合する形
- １Ｆにメインの図書館部分を配置、Ｍ２Ｆに図書館と観光、２Ｆに宿泊施設と本を設置し、１Ｆから２Ｆまでグラデーションをかけることで、全体を図書館としながらソフト面の充実につなげていく。
- 図書館と宿泊施設の複合は国内でも初めての取組み。どのように具現化していくかについては今後適切に考えていく必要があるが、本来の図書館機能を損なうことがないように、調整しながら進めていくことになる。

［概要説明に対する参加者からのご意見］

- ２Ｆホテルのフロアに学習室があるのは、子どもの安全確保の観点から見直して欲しいとの要望があった。
- 児童図書コーナー及び書庫の位置は過去に浸水の事例あると懸念の声があった。



（４）近年の図書館事例の紹介

国内の近年の図書館事例をもとに、図書館は本来の機能に加えてさまざまな活用方法があることを紹介。

（５）講演「本と過ごす 箱根本箱の5年間とこれから」

株式会社ひらく 代表取締役 染谷拓郎氏

本とホテルが融合した「箱根本箱」の事例をもとに、本との過ごし方、出会い方、良い時間と場所をつくることをテーマに講演。
また本施設についても、施設の内外で「どのようなことができるか」その可能性について考え方を紹介。

（６）グループディスカッション

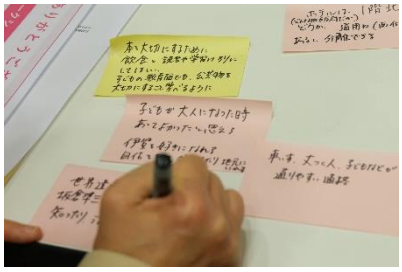
講演後、「図書館×ホテル」「図書館×〇〇（各自自由に設定可）」をテーマに「新しい図書館で何が出来るか」についてグループディスカッションを実施した。

グループディスカッションの流れ（ STEP１～５は全３回とも同じ）

STEP１：アイスブレイク（自己紹介）
STEP２：シンキングタイム
STEP３：アイディアをふせんに書き出す
STEP４：グループ内発表
STEP５：全体発表
STEP６：全体講評（講演者 染谷拓郎氏）

STEP１ アイスブレイク

STEP２ シンキングタイム


STEP３ アイディアをふせんに記入

STEP４ グループ内発表

STEP５ 全体発表

STEP６ 全体講評

（7）ディスカッションで出た意見やアイディア

・ホテルに対しての安全性を心配する声が多く出た。

・水害、水没により文化財が被害をうけることを心配する声もあり。

・図書館の児童書架から子どもを連れてトイレに行くときに階段があって困るのではないか、という意見が出たことを踏まえると、身体障がい者の方に開かれている施設をつくることで、誰もが利用できる誰もが使いやすい施設となってほしい。

・伊賀の広い土地の中で、図書館に行きたくても行けない人が、デジタルを使えるのかどうかなど、どのように対応していくのか。

・普段自分が好きなアクティビティができる場所であってほしい。

・レファレンス機能も充実させ、観光に使って欲しい。

・伊賀焼などの体験ワークショップを開く、伊賀の文化人の展示コーナー、ここに来なければ見られない場所をつくる。

・伊賀市の中心から離れた施設との連携についても考えていかないといけない。

・ホテルであれば、伊賀のアメニティを使ってもらったり、伊賀の作家さんの本にふれてもらう機会をつくっていくなど。

（8）全体講評

全体発表後、講演者の染谷拓郎氏に全体講評をいただいた。

- たくさんの意見が出て驚いている。図書館に対して期待や色々な想いを持たれて参加されていることを知って心強く感じた。
- 意見の共通点として「伊賀らしさ」をどうやって出していくかについてみなさんすごく大切にされていると感じた。
- C班で出た文化の地産地消「伊賀で生まれた文化を大切にする」それをみんながそこで体験することができるというのは参考になる意見。
- E班の発表のとおり子どもの利用についても、子どもにとって良い場所になれば、それは大人にとっても良い場所。観光の方にも交わって使ってもらえるという視点には納得。
- 建物だけで完結するのではなく、色々なところと連携したほうがいいというのも共通意見。全部の意見を盛り込みすぎるのではなく、「連携」を中心にする切り口になると、よりこの場所が面白くなるのではないか。

Ⅳ　第３回ワークショップ

第３回ワークショップ

（１）テーマ

みんなでつくる新しい図書館 ～学び・創造・憩いの広場、交流型図書館として～

（２）本事業の“現在地”説明

2021(令和3)年10月に伊賀市が「伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）に関するＰＦＩ事業」の募集要項が公開された。
本事業の目的は伊賀上野城下町の歴史的な町並みの保全やアフターコロナ時代における観光まちづくりによる中心市街地の活性化、さらには市のまち・ひと・しごと創生による持続可能なまちづくりを実現すること。
具体的には「旧上野市庁舎」改修と「成瀬平馬屋敷跡地」への「忍者体験施設整備」の２本立てで、事業期間は契約締結日から2043年(令和25年)の3月末日までの20年。
我々事業者は、市が設定した上限額の範囲内で事業を遂行していくが、2023年6月末までに基本設計をまとめる。
全３回のワークショップで出たご意見も踏まえて4～5月で現行案を修正し、6月初旬ごろを目途に市民向けに説明の場を設けることを検討している。

（３）現在検討中の本施設の概要説明

各フロア図面に「図書館（児童書）」「図書館（一般書）」「カフェ」「観光施設」「宿泊施設」等々を明示したうえで説明を行った。
「旧上野市庁舎」に求められているものは、
　ⅰ 図書館機能
　ⅱ 観光案内・交流機能
　ⅲ 観光地域づくり拠点機能　である。
これに対し、我々は「図書館機能」と「観光案内・交流機能」がゆるやかに一体となることを目指す。

（４）第１回・第２回ワークショップ振り返り

ア　こんな施設であれば・こんなことができれば・・・

【地域の魅力発信】

・伊賀の魅力の発信については、伊賀市の財産を紹介するスペースを広くとって欲しい。文化芸術産業で活躍する有名な人を紹介できれば。

【快適な空間として】

・空間、音楽、学び、体験などの「癒し」を求める意見が多く出た。

・長い時間を図書館で過ごしたい。その時間の中で、食べたり飲んだりできる接点がカフェ以外の場所にも必要なのではないか。

【コミュニティの中心として】

・分からないことでも地域の人に色々教えてもらって、新しいアイデアとして自分の夢を拡げていくのもいいのでは。

イ　一方で心配の声も

・図書館とホテルの併存

「学習室」への動線とホテルへの動線を明確に区切ることを考えている。

・施設内での酒類の販売

観光機能を発揮するために、土産物として地元銘品である伊賀の地酒等は販売する。施設内で飲むための酒類の提供については、ワークショップの中で出されていた懸念を運営の中で考慮する。

・児童書コーナーの位置（浸水対策含む）や活用方法について

子どもたちに「隠れ家」的な空間を楽しんでもらいたいという意図でここに配置した。今後の設計の中で、子どもたちが楽しく過ごせるような空間となるよう検討していく。

浸水対策については技術的に対応する。

・集会室機能の有無

イベントの内容によって旧議場を会場として活用。またＭ２Ｆ観光フロア内の什器の構成を再検討し、一時的に什器を移動させることでイベント会場として活用できないかも検討する。

ボランティアの打合せ等はミーティングルームを活用する。

ボランティアが使用する物品の保管場所を捻出することを検討する。

（５）グループディスカッション

説明後、「この施設の計画について楽しみなこと、心配なこと」をテーマにグループディスカッションを実施した。

（６）ディスカッションで出た意見やアイディア

・きれいな図書館。市民、宿泊客にとってもワクワクする。
・ユニバーサルデザインという点でベビーカー、シルバーカー、車椅子などで誰でも行ける動線の確保ができるのか。
・駐車場がどうなるか心配。駐車料金どうなるのか。
・医療室があるか。子供が倒れたらどうなるのか。
・２Fの学習室が暗い、活用しやすく明るく、中庭の活用を絡めることができれば。
・市民へのサービス計画が見えない。これは、市民への周知、説明が不足しているため不安な意見が出る。
・EVが1つしかない。バリアフリーへの対応。
・客室から学校が丸見えとなって心配。
・継続的に市民の意見を聞く場を設けてほしい。聞くだけではなく採用し、修正していくシステムを作ってほしい。
・外人との交流、観光への期待。忍者にこだわらず伊賀の他の魅力の発信。
・司書と学校図書館との連携。
・スキップフロアが生み出す多彩な空間表現が建築的に楽しみ。
・図書館と宿泊施設バランスの取れた共存。
・２Fの学習室でいろいろ勉強でき、イベントができることを期待。
・宿泊施設には階段が多く設けられているが利用者をどのように分けるのか。
・インターネット、レファレンス機能の充実。カフェができるのであれば食事もできて1日過ごせる場所であってほしい。別に買い物しなくても使える場所。

Ⅴ　ワークショップまとめ

ワークショップまとめ

全３回のワークショップを通じて多くの意見やアイデアが出された。特に第１回、第２回のワークショップで、もっとディスカッションの時間をとってほしい、施設についての説明が足りないとの意見があったことから、第３回のワークショップでは開始時間を３０分早め、施設についての説明時間を設けた。ディスカッションでは、主に伊賀の魅力発信、快適な癒しの空間、コミュニケーションの場としての施設、を求める意見が多かった。また図書館とホテルの併存、酒類の販売、集会室機能、児童コーナーの位置、浸水対策などについては心配する声があり、今後はこれらを参考にしつつ、基本設計をまとめ、６月上旬ごろには市民向けに説明の場を設ける予定。

ワークショップで出た主な課題

	意見	対応
1	図書館とホテルの共存	学習室への動線とホテルへの動線を区切ることを考えている
2	施設内での酒類の販売	土産物としての地酒等は施設内で販売する。施設内で飲むための酒類の提供はワークショップで出されていた懸念を運営の中で考慮する。
3	児童書コーナーの位置	子どもたちに隠れ家的な空間を楽しんでもらいたいという意図があっての配置。今後の設計の中で子どもたちが楽しく過ごせるような空間となるよう検討していく。
4	集会室機能の有無	イベントの内容によって旧議場を会場として利用する。またＭ２Ｆ観光フロア内の什器の構成を再検討し、一時的に什器を移動させることでイベント会場として活用できないかも検討する。
5	浸水対策	技術的に対応する
6	市民への周知	６月上旬に説明会を開催する予定

伊賀市にぎわい忍者回廊整備（忍者体験施設等整備）事業
ワークショップ 図書館のつくりかた みんなでつくる 新しい図書館 報告書
令和５年（２０２３年）５月発行　／ 編集 （株）伊賀市にぎわいパートナーズ